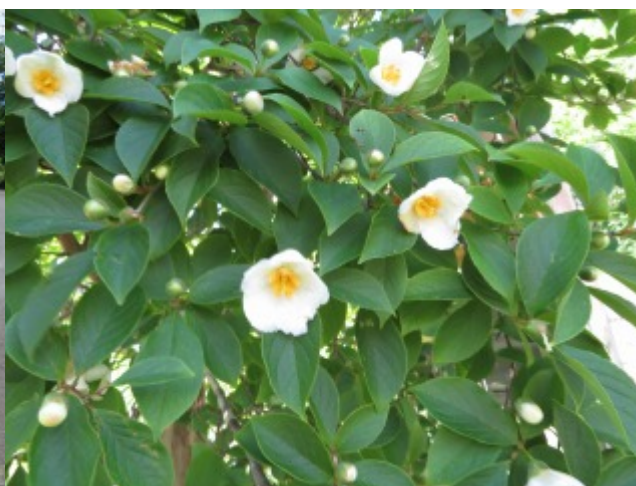


裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行番 NO. 1934	
日時 2021年7月21日(水) 晴れ・風涼しい	
山域 北ア・焼岳北峰(日本百名山・2393m)	
コース 中の湯―登山口4:11―下掘沢5:45―南の肩6:50―北の肩―頂上6:59 ～7:07―森林限界上(朝食)7:23～8:03―下掘沢―登山口9:37―長泉 17:30	
標高差 上り・下り 中の湯登山口約1600m～焼岳2393m＝約793m	
快適度 5(5段階評価) 藪なし	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<b>さわやかな、早朝登山だった</b>	
参加者 後藤、斎藤(駿東山の会)、荒木(一般)＝3名	

20日・21日は、乗鞍高原と焼岳。今回は、忘れ物はなかったか??!! 20日は、ゆっくり出発。松本でソバの昼食。食後、乗鞍高原に向かう。一ノ瀬園地から善五郎ノ滝を目指し、周遊予定で出発。



乗鞍岳・一ノ瀬園地



ナツツバキ

園地は、標高約1500mだが、午後の陽光はすさまじく、モーレツに暑かった。道標に従って行く。ただ、途中で林道みたいな感じになり、それを上ったが道は途中で無くなった。

下って別な道を辿ったが、どうもスッキリしない。そこを下って、もう一本の道を上ったが、それもダメ。乗鞍でそんなことがあるだろうか?? 時間も15時半なので、今回は終了。

下山していくと、何と善五郎に向かう道標が道端に転がっていた。上る時は全く気が付かなかった。本格的な山は、数多く登山道がある訳でないのに、余程のことがない限り、道は間違えない。難しいのは、ちょっとした里山的な山で、様々な道が錯綜している。中には登山道でなく、生活道もある。そんな山だったが、案外、花が咲いていた。

「ウツボクサ」「イチヤクソウ」「ナツツバキ」「ホタルブクロ」「ノアザミ」「ヤマオダマキ」「サラ

シナショウマ」「ノコンギク」などなど。園地に戻り、中の湯に向かうが、しかし、どうしても、ヤナギランを見たくて、バスターミナルに戻ると、やっぱり咲いていた。これを見ないと、夏は始まらない。隣にド派手な「シモツケ」が満開だった。

中の湯は久しぶりだった。玄関に向かう、階段脇に「クガイソウ」「ヤマハハコ」が咲いていた。クガイソウも、夏を象徴する花。



ヤナギラン



シモツケ



中の湯食堂



21日、3時起床。朝食は弁当。無理やり一ヶ食べた。それで料金は、13200-+入湯税150-。目立ったサービスもなく、ちょっと高い。昔は、民宿のババさまなど、3時でも4時でも起きて支度をしてくれたものだが・・・。時代は変わった。

タバは、いささか飲み過ぎた。部屋に戻り、後ろに転倒し尻と上腕を強打した。朝、痛かった。後ろに倒れるのは危険。頭を打ったらアウト。階段だったら、更にヤバい。今回は300kmを一人運転で疲れていたのだろうか。飲み過ぎは、その反動だろう。無理は禁物だ。

それでも、朝は目覚ましなしで、一発で目が覚めた。相方の二人も、しっかり起きた。宿から車で少し上り登山口に向かう。登山口に車は数台。涼しくイイ風が吹いている。既に1名出発するばかりだった。我々も4時11分出掛ける。

薄暗かったがランプを使う程ではない。先行者の鈴の音だけ聞こえる。暗いうちにイヤな下部を上



るのは得意だ。若いころ、冬山は12時起床、1時発などザラだった。ただ冬山は、上りの地形を  
しっかり把握して置くことが肝心。往復登山の場合、時々、帰還できない輩がいる。



下掘沢



Aさん、新調した靴



森林限界を抜けると焼岳が見えた。秋みたいな澄んだ青空に佇立していた。下掘沢(しもほりさわ)  
に出る。冬はスキーで何回か訪れている。随分、道が荒れている。ま、ここもオーバー・ユースな  
のだろう。





コケモモ



乗鞍岳



上る上る



上る上る



冬の焼岳は夏上る北峰に上らない。上部で雪崩リスクがあるからだ。冬は夏、登山禁止の南峰に上る。その場合、下掘沢でなく、南峰・南尾根を辿る。南尾根は、なかなか厳しい尾根。しかし、スキーは素晴らしい。



下掘沢を上る。早朝の清冽な大気の中に、霞沢岳・乗鞍岳が浮かぶ。静かな山。山が一番美しい瞬間。下掘沢は、花が少なかった。南面なので、とっくに終わってしまったようだ。仲間に「ネバリノギラン」を教える。この植物は、指で挟むと「ネバナバ」しているから、簡単に



南の肩



南峰（2456m・北峰より高い）

覚えられる。

南の肩が近づく。ここは、いつも水蒸気が噴いている。いい南東の風が吹いているので、こちらに流れず有難い。若い男女がいた。見覚えがないが、中尾峠からか。北の肩に達した。頂上はすぐだ。



辺りは、以前、水蒸気が多かったが、今回は全くなかった。活火山は怖い。速やかに上りたい。同行者の二人は元気イッパイだった。

今回は標高差が多くないので少し楽。900m以下の上りならキツくない。頂上に達した。誰もいない。青空が大きい。風が快適。笠・槍・穂高・常念・霞沢・乗鞍の大展望。同行者がバンザイ。



焼岳頂上



バックは穂高岳

時間は丁度、7時だった。3時間掛からなかった。いいペースだった。何人か上って来た。活火山は油断が出来ない。すぐ下る。下からゾロゾロ上って来る。森林限界の上で朝食??!!オニギリ・



キュウリ・エダマメが美味しかった。高山市に親戚があり、今日上って来た女子の写真を撮ってあげる。

「Uber Eats」（ウーバー・イーツ）のザックを背負ったオジサンに会った。このザックは、食材などを宅配時使うザック。「何で??」と聞いたら、「受け狙い」と笑った。同行者は、「頂上に



下山



「Uber Eats」宅配オジサン??（ピザ食べたい!!）

何を届ける?」と本当に思ったらしい。（`艸`）

この時間になると、下から凄い人数が上って来る。犬連れの方・子連れの方・団体登山などなど。





犬連れ



下刈り



荷上げ



子連れ登山（上の男子は4歳）



しかし、陽が昇り暑くなってきた。涼しい時間に上って良かった。登山口上で登山道下刈りの方が2名いた。下から物資補給の女子も来た。聞けば、中の湯の方たちだった。自主的か委託か聞きそびれたが、有り難いことだ。このような方がいて、登山道は保たれている。

9:37、登山口着。速攻でイイ山だった。大汗を掻かなかったので、温泉もパスし帰静した。今回も河口湖で昼食でしたが、「普通の食堂」で、全く問題なかったです。（´艸`） （了）